

令和8年度第1回大野城市環境政策審議会議事録

1. 日 時 令和8年4月23日（木） 10時00分 ～ 11時00分
2. 場 所 大野城市役所 新館3階 322会議室
3. 出席者 ・ 審議会委員
萩島会長、鈴木副会長、朝廣委員、浦屋委員、吉原委員
・ 事務局
松竹環境経済部長
（循環型社会推進課）
井ノ上課長、仁井山係長、花岡係長、宇都宮係長
（関係課：産業振興課）白濱係長

4. 内 容

(1)開会

大野城市環境基本条例施行規則第14条第2項の規定により、過半数の出席で審議会が成立

(2)会長あいさつ（萩島会長）

年次報告書は例年の審議事項になるが、委員の皆さまには、多様な観点からお気づきの点を率直にご意見いただければと思う。本日は、よろしく願います。

(3)事務局あいさつ（各自、自己紹介。事務局を代表して、部長あいさつ）

(4)審 議

**審議事項：大野城市環境基本計画・地方公共団体実行計画（区域施策編）
2024年度（令和6年度）年次報告書について**

～事務局より審議内容の説明～

資料1・2・3を用いて、内容を説明。

～質疑・応答～

【鈴木副会長】

活動指標や成果指標に対しての評価がされている点は進捗状況等が分かりやすいと思う一方、気になるのは、活動指標がSでも成果指標はDのような項目も多い点である。この辺りは今後、どのように進めていく予定か。

（事務局）

活動はしているけれども、成果指標に繋がっていない項目もある。今後、成果を高めるためにも洗い出しを行い、分析をしていく必要があると考えている。

【萩島会長】

今の関連では、成果は市全体についてだが、活動は限られた人たちに対するものという項目も多いため、成果に繋がっていないところもあると思う。今後、こ

の項目は改善の見込みがあるとか、注力していくというものがあれば教えてもらいたい。

(事務局)

単年度で評価する成果指標と令和12年度に向けて評価する成果指標が混在しているため、今後評価が年次的に上がっていく項目もある。例えば、取組5-4の庁用車の次世代化は、令和6年度の時点では20%程度なので、D評価であるが、計画的に導入を進めていく予定としているので、今後年次的に評価が上がっていく予定である。そのような指標と、成果に繋がっていないために低評価である指標とをしっかりと切り分けて、後者の部分についてはてこ入れを行っていく必要があると思う。

【萩島会長】

市の取組だけではなく、社会情勢で変わっていくという部分もあるが、きちんと整理しておくことはすごく重要なことだと思う。

【朝廣委員】

市民への公表で、意見がゼロだったということはどう捉えているか。問題がなく、満足度が高いという話なのか、そもそも興味関心がないのか。そこが問題なのではないかと思うところがある。補助だけではなく、市民への周知啓発など、総合的に行う必要があると思うが、その辺の課題認識や市が抱えている課題等はどのように考えているか。

(事務局)

市民にいかに知ってもらおうかということが、一番の課題だと思っている。

そのため、地域に出向いていってお話をさせていただく地域勉強会の取組みを進めている。また、事業所については、事業所訪問の際に事業者の方にお話しさせてもらっている。地道な取組になるが、これらの取組により、周知啓発を行っている状況である。ただ、市民の関心はそこまで高いとは感じられないのが現状である。

【朝廣委員】

そこが多分、周りの市町村と比べても、一つの大きな課題なのではと感じている。

(事務局)

地域勉強会も限られた時間の中での実施なので、どの程度市民の方に届いているかの把握ができていない。

【萩島会長】

年次報告書は分量も多いので、ぱっと見るのは概要版だと思う。現在の概要版はオフィシャルの資料と感じがする。最近ではAIを使って、イラスト付きとかで結構わかりやすく市民向けコンテンツを作成していることもあるので、ぱっと見て市民がわかるようなものがあると良い。この分野はうまく進んでいるとか、ここは市民にもっと知って欲しいとかが分かるもので、市民に短時間でわかりやす

く伝える情報発信の仕方を工夫した方が良い。

(事務局)

ぱっと見て分かりやすく状況が把握できる資料は必要と思うので、他市の事例等を参考にしながら、今後作成していきたい。

【朝廣委員】

今はテレビを見ずに、YouTubeを見る人が多い。数名かもしれないが、市内で先端的な取組をしているYouTuberにスポットをあてて、みんなで進めましょうねという啓発を、情報発信のメディアを少し多角化しながら、もっと力を入れることで啓発が進むのではないかと思う。

【鈴木副会長】

2030年目標までは、もう4年しかない。温室効果ガス排出量の推移を見ると、減少幅は別として、2013年と比べ、家庭部門、業務部門、産業部門は減少に転じている。しかし、運輸部門に関してはこの10年ぐらいでほぼ変化がないので、これに対してどういうアクションを取るのか。市単独では難しい部分だと思うので、どのような社会連携を進めていくか。目標をどうやって達成するかという観点で見たときに非常に難易度の高い話であることは承知のうえで、実現しようとしたら、どうすべきなのかというバックキャストは必要と思う。そこが見えてくると、市民に対して何を願うべきかがクリアになってくると思う。

【浦屋委員】

同じことを思う。この1年間での減少幅を見ると、2030年度までに本当に目標値を達成できるのかと思う。CやD評価などに対して、どのように市民に訴えて実績を挙げていけばいいのかと。私も市民が長いが伝わっていない。

どのようなやり方をしたら達成できるかということが足りないという印象を受けた。

【萩島会長】

ごみの分別とか、減量はわかりやすく、そのことを反対する人もいないと思うが、例えばEVとか太陽光に関しては、賛否や様々な意見があるので市としても、働きかけにくいところがあるのか。また、自動車のEV化が進まないのには国産メーカーがあまり作っていなかったという背景があると思うので、今後多分増えていくのではないか。EVが太陽光発電を活用していくと、社会全体の化石燃料の利用が減っていくので、そうなるには市単独というよりやっぱり社会全体の変化が必要と思うが、それを後押ししていくことは大事かなと思う。

(事務局)

おっしゃられるように、運輸部門の対策が一番難しいと感じている。EV化に対する補助金交付は実施しているが、宅配の急速な伸び等で走行距離とかも増えているので、根本的な車がEV化しないと難しい。

【萩島会長】

生産台数とか、販売台数が増えていくと、自然に普及していくというその最初のところのアクセルがかかっていない状況だと思う。

【鈴木副会長】

運輸部門は一般の乗用車も、事業所の車両も両方含んでと思うので、事業所に対しては事業所で使われている車両をできるだけ温室効果ガス排出量の少ないものに変えてくださいのような、ある程度具体的なガイドライン的なものを示すのもEV化に向けては有効なのかなと思う。

（事務局）

現時点では、事業所訪問を通じてEV化への働きかけを行っており、事業所からのEVの補助申請も年々上がってきている。温室効果ガス排出量の数値に影響を与えるほどとなると、業務で使用するトラックなどのEVが重要と思うが、現時点ではまだ車種がない状況である。

市民に対しては、自分のできるところから行動変容を行ってもらうために、ECOチャレンジ応援事業を実施している。身近なところから無理なく、継続してできることをしていただくという周知を進めている。

【萩島会長】

ECOチャレンジ応援事業は福岡市が音頭をとって実施しているものか。

（事務局）

10年くらい前から福岡市が実施をしており、近年、福岡都市圏の市町村に対し、共同実施を呼びかけ、本市も参画している。

【萩島会長】

自治体職員のキャパは限られていて、個別に同じことをみんなが同じエネルギーでするのも大変なので、協力できることはなるべく一緒にすることはよい。

（事務局）

最近では、筑紫地区でも同様に、何か広域で行えることはないかと話し合いを始めている。

【朝廣委員】

グリーンインフラについて、福岡市の森林審議会の分科会でも議論になったが、森林の将来像と人材育成像をどう考えるか。広域に伐採して、広域に植林して、下草刈りをやっていくやり方でいいのかと。もっとモザイク型としていくべきではないかや針広混合林の実施方法についても協議があった。

大野城市でも樹齢71年生は30%を超えてきていると説明があったが、これは切れていないという実情があり、大野城市としてどんな将来像を設計して、整理をしていくかなどをしっかりと考えていく必要があるのではないかと。

（事務局）

市職員は林務に関してなかなか専門的な知識を持ってやり方を変えていくということは難しいところで、専門的な知見のある方のアドバイスをいただきながら、計画していければと考えている。

【朝廣委員】

大野城市にはトラスト協会という、他自治体にはない大きな財産がある。この

ようなところを小面積でもいいのでモデル林を作ってみるなどの取組を公の方でできることから少しずつしながら、地権者に問いかけていくということも必要ではないかと思う。

あと、もう1点、街路樹の緑化をどのように考えるのか。市役所前のケヤキなどが強剪定されていることについて、地元からの苦情もあるだろうが、グリーンインフラの暑熱の緩和、景観や防災などの多様な機能をいかに最大化するかという点では、全てとは言わないが、例えばエリアごとにメリハリをつけてグリーンインフラ機能をどう考えるかというところを検討いただきたいと思う。

(事務局)

ケヤキを植えた当時は木もまだ小さかったが、大きくなるにつれて道路幅員とのバランスや沿線住民からの苦情、根上の影響もあり、今のような強剪定となっている。そのため、最近ではなるべく大きくならず、管理しやすい品種を選ぶようにしている。今後、エリア分けをして、道路の老朽化と併せて街路樹をどうするかということも課題と考えている。

【朝廣委員】

今後ますます熱くなってくるだろうし、高齢者も増えてくるので、歩きやすいコンパクトシティ、ウォークブルシティのようなものもあるので、病院や福祉施設の近く、学校の近くや通学路などを中心に、そのような方々が安心して外に出られる場所をもう少し重点的に整備されるといいのではないかと思う。

【萩島会長】

環境の問題はなかなかすぐに解決するということではなく、私たちがずっと付き合っていくといけないものである。市のさまざまな事業にも関わるし、一方で財源は限られているという中で、どうやって効果的に市全体としての脱炭素とか、いろんなことを達成していくかとなると、なかなか難しいと思うが、引き続き取り組んでいただきたいと思う。

それでは、議題の内容を承認してよろしいか。

審議は、審議委員了承の上、終了

(5)閉 会